

会 の 名 称 : さいたま北部医療センター地域協議会	承認済会員数 (7名)
日 時 ・ 場 所 : 2025年9月11日 (木) 19:30 ~ 20:30 大会議室・全	
出 席 者 : <p> <委員側> 松本 雅彦(大宮医師会会長)、遠藤 俊輔(自治医科大学附属さいたま医療センター学附属さいたま医療センター長)、 堤 俊太郎(さいたま市保健衛生局地域医療課長)、三浦 正稔(さいたま市保健衛生局保健所管理課主幹)、五十嵐 光一郎(さいたま市北区自治会連合会 会長) </p> <p> <病院側> 黒田院長、菅原副院長、塩川副院長、中條院長補佐、伊澤地域医療連携室長、小野看護部長、野口事務長 (事務局) 佐藤事務長補佐(総務企画)、上見地域医療連携室副室長、大淵地域医療連携室係長 </p>	
欠 席 者 : 【計:0名】	
【 議 題 及 び 議 事 録 】 <p> 1. 病院の近況について(野口事務長) </p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営状況について <p> 令和6年度の経常収益は令和5年度と比較して4,100万円の減。前年度より1日平均患者数は増加しているが、コロナ補助金関係も含む補助金等収益が減額となりほぼ横ばいとなっている。経常費用は、前年度比で1億2,400万円の増。結果、令和6年度は1億7,800万円の赤字となり、前年度と比較し1億6,500万円ほど悪化した。 </p> ・令和7年度 経営目標と現在の状況について ・令和7年度 その他経営改善に関する取り組み事項について ・高齢化対策、地域住民の生活を支える・地域の医療機関等との連携強化について ・医療機能の充実を求める要望について <p> 2. 意見交換 </p> <ul style="list-style-type: none"> —遠藤センター長:リハビリの稼働状況はどうか。 —黒田院長: 土日のリハビリを行うにはスタッフの人数が足りない。増員を本部に要請している。 —遠藤センター長:心臓リハビリは収益上行率が良いと聞かすか。 —菅原副院長: 外来の心臓リハビリは進めているが、人員の関係等で現状はまだ患者数が少ない。 <ul style="list-style-type: none"> —五十嵐自治会長:救急車の受け入れ台数が目標に届かないのは、受け入れ体制が整っていないためか。救急要請をお断りすることも多いのか。 —野口事務長: そもそも夜間帯に依頼がない日もある。内部体制についても改善すべき点はある。お断りもある。 —黒田院長:救急車の応需率は、自治医大からの救急医の派遣もあり改善している。人手の少ない金曜日は循環器内科にも救急当番を担当してもらい、受け入れ強化を図っている。一方、救急車の依頼件数は減少傾向にある。近隣病院の受け入れが増加していることが要因と考えられる。 —遠藤センター長:75歳以上の救急を3応需以内に受け入れると補助金が出るという話がある。 <ul style="list-style-type: none"> —松本医師会長:さいたま市立病院も昨年度は1億の赤字であり、今年度も厳しい見込み。個室料金の値上げや積極的な救急の受け入れなどを検討しても、今の医療体系では経営改善は難しい。 —遠藤センター長:個室料金を上げると、使用率が下がるという逆効果もある。半個室や、窓際に差額料を取るなど検討してもよいかも。個室にインテリアを揃えて、個室の収益が上がった病院もある。 <ul style="list-style-type: none"> —遠藤センター長:入院患者が増えると在院日数が減るという矛盾があるが、現状どうか。 —黒田院長:急性期の在院日数は10.1日。10対1の看護体制としては通常より短い。 —遠藤センター長:163床フルオープンしたとのことだが、実際の入院患者数が120~130ならば病床を返すという手もあるのでは。 —黒田院長:前年度単月黒字であった際、満床でのお断りが多くあったため、6月よりフルオープンした。 	

—遠藤センター長:業務委託や契約関係の見直しについて考えはあるのか。
—野口事務長:複数社の入札や、JCHOや国立大学病院の共同入札の参加等行っている。また、大型医療機器等はJCHOの共同購入に参加するようにしている。

—遠藤センター長:人間ドックや健診についてはどのようか。自由診療部門を強化する予定はあるのか。
—野口事務長:病院本体は1億8,000万円ほどの赤字だが、健診部門は9,000万円の黒字となっている。人間ドックの増枠も検討していきたい。
—遠藤センター長:CTやMRIの稼働件数はどれくらいか。
—野口事務長:今年度は4ヶ月でCTが3,000件、MRIが900件ほどとなっている。

—遠藤センター長:光熱費についてはどのようか。
—野口事務長:光熱水費は前年比で4ヶ月で150万円ほど下がっている。一方ガスは50万ほど上がっている。
—遠藤センター長:節電など何か対策はしているのか。
—佐藤事務長補佐:職員へ階段の利用を促したり、電源をこまめに切るよう呼びかけを行っている。

—三浦主幹:入院件数について、予定入院、緊急入院の内訳はどのようか。また、予定手術の待機期間はどれほどか。

—黒田院長:予定入院と緊急入院はほとんど半数ずつとなっている。
—塩川副院長:手術はがんでも大体1ヶ月以内にできる。お待たせすることはあまりないが、ヘルニアや胆石が集中する時期は1か月以上待つ場合もある。

—五十嵐自治会長:福祉協議会と共催で、健康寿命を伸ばすには、生活習慣病との付き合い方という題目で黒田院長による講演会が行われる予定。掲示板等でお知らせしているとのこと。

また、コロナウイルスの流行後、通常の風邪に罹らなくなった。その原因について専門的な意見をきいてみたい。

—黒田院長:恐らくマスクと手洗いの習慣によるものでしょう。
—遠藤センター長:病院と地域の距離を縮めるために、予防医学を推進し地域住民の方々と情報共有する場を設けることは良いと思われる。

—遠藤センター長:さいたま市の産科ネットワークについて、産科は収益が良くなく維持も大変なため、市として協力してもらえると良いと思われる。

また、泌尿器科は悪性腫瘍に限らず前立腺肥大症や尿管結石も多いため、予定入院を増やしていくことも収益増の一つの手ではないか。

—中條院長補佐:前立腺肥大症は投薬でのコントロールが可能で手術は年に数件。結石は手術が多く、週に数件程度行われている。

—遠藤センター長:整形外科も受け入れは多いのではないか。

—伊澤地域医療連携室長:昨年より赴任しているが、外傷に力を入れるようにしており、少しずつ手術件数が取れるようになっている。

4. 次回開催について

—佐藤事務長補佐:令和7年度第2回は3月開催予定。12月をめどに改めてご連絡し日程調整をさせていただきます。

以上